CASE 36

5歳児

# 「そうめん流ししたい！」

協力園
玖珠町立森幼稚園

（幼児の実態）

６月。子どもたちは、砂場に裸足で入り、穴を掘ったり、溝やトンネルを作ったりしながら、水を流して楽しんでいました。「水を満タンにしてプールにしようや！」と、じょうろやバケツで何度も水を汲み、穴や溝に流し込んでいます。その様子を見て、保育者が樋をいくつか出すと、どうすれば水が流れるかを試し始めました。「坂にせんとダメなんよ」とC児。樋の下に砂を固めて土台を作り、樋を斜めにすると、水が流れて穴に入りました。他の子どもも一緒に「すごい！」「僕もやってみよう。」と樋を組み合わせたり、角度を変えたりするなどしていました。

「いくよー！」「二人で取ろう！」

「ザルを置いてみよう」

「流してみるよ！」「取るの難しい！」

自分たちで準備して試す

「これならいいやん。」

探してきたトンネル型の枠を台にする

今日もプール作ろうや！」と子どもたちは裸足になって砂場に行き、掘った穴に樋を使って水を流し入れています。そのうちに、A児は「そうめん流ししたい！」と言い、自分で倉庫から竹の樋を持ってきました。そして、「なんか台がないといけん。」と探し始めたので、保育者は「これならあるよ。」と、コンテナを出しました。A児は、コンテナを運び、竹樋をコンテナと砂場の淵に渡すと、「これじゃ流れん。なめめにならんと。」とまた周りを探し始めました。そして、トンネル型の枠を持ってきて、竹樋の下に置いて台にすると、「これならいいやん。」と納得したように言いました。

すると、他の二人も「そうめん流し、やりたい。」と集まってきました。B児が、「そうめん、どうする？」と考え始めたので、保育者は「何かないかな。探してみようか。」と、園庭内を一緒に探し始めました。B児は、細長い草を見つけ、「これ、いいね。」と摘み、「今日のそうめんは緑そうめん。」と嬉しそうに言いながら、竹樋に準備しています。「お箸ないから、どうやって食べる？」と、B児が保育者と話しているのを見て、C児が「木とかどう？探してくるよ。」と探しに行きました。しばらくして「ちょっと曲がってるけどどう？」と木の枝を持ってきました。「いいねー。」とB児。「でも、5人分いる（＊園児3人と保育者の5人分をいつも用意している）から、誰か探すの手伝って。」とC児。B児と一緒に保育者も木の枝を探しました。

そうめん流しが始まりました。「よし、流してみるよ！いくよ！」とA児が声をかけて流すと、B児は「きた！えっ！取るの難しい！」「あっ！ちょっと取れた！」と言いながら、流れてくるそうめんを取っています。二人は「もう一回しよう！」と次の準備を始めましたが、取りそこねたそうめんが溜まった水にバラバラに浮かんでいるのを見つけ、「その前にそうめん取らんと。」と、話しています。保育者が「これは、大変だ。何かいい方法ないかな。」と問いかけると、A児は「ここで誰か待っとけばいいやん。」と言います。「そしたら、その人できんやん。」と、B児。それを聞いたA児は、しばらく黙っていましたが、「あっ！いいこと考えた。」と、ザルを持ってきて竹樋の先に置きました。B児が、「それなら、いいかもね！」と言ってやってみると、そうめんがザルに溜まっていきました。保育者も、「これならバラバラにならないね。すごいね。」と一緒にそうめん流しを楽しんでいます。

そばで、拾ってきた枝を折って長さを揃えたり、形を整えたりして箸を作っていたC児も作り終えると、一緒にそうめんを取り始めました。C児が、「今度は流す人やってみたいな。」と二人に言うと、A児は「いいよ。やさしくせんとこぼれるけん、気をつけて。」とC児に伝えました。B児が「やさん、二人で取る人しよう！」と声をかけると、「いいよ！よーし、いっぱい取るぞー」とA児もはりきり、C児は「くよー！」という元気な声で流し始めました。その後、何度か役割を交代しながら、そうめん流しを繰り返しました。それぞれの茶碗にそうめんが入ると、テーブルに運び、「先生、そうめん食べるよ。」と、もう一人の保育者にも声をかけ、みんなで、「ただきます！」と食べました。

子どもたちは、その後もみんなで一緒にバーベキューごっこやコーヒー牛乳屋さんごっこを楽しみ、やがて、「なんかキャンプみたいだね。」とイメージを膨らませました。「キャンプごっこしよう！」と、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりしながら、遊びを進め、キャンプごっこは、1学期の終わりまで続きました。

## 事例から見られる10の育ち

### 思考力の芽生え

樋を使って、掘った穴に水を流し入れる様子から、A児は、そうめん流しをイメージし、自分で必要なものを準備している。傾斜をつければ水が流れるというこれまでの経験から、どうすればそうめん流しができるのか、流れる仕組みを考え、道具を置いたり、組み合わせたりして、工夫している。

他の二人も、そうめん流しに必要なものやその量・数を考え、身近な環境から探し、準備している。

取りそこねたそうめんが、溜まった水にバラバラに浮かんだ場面では、友達と考えを出し合いながら、解決できそうな方法を考え試している。

これまでの経験等から気付いたこと、考えたことを活用しながら、試行する姿が見られる。また、互いが考え合うことで、新たなアイデアや工夫が創出され、みんなで、そうめん流しを楽しんでいると思われる。

### 言葉による伝え合い

自分の思いや考えを保育者や友達に伝える中で、そうめん流しのイメージを共有し合っている。どうするといいか考え合う場面では、自分なりの予想や考えを言葉にして友達に伝えている。

友達の話を聞き、「いいね。」と共感することで、やりとりを楽しみながら思いや考えを伝え合っていると思われる。

また、A児は自分が水を流したときの経験から、うまく水を流す方法に気付き、それをわかりやすく伝えている。

互いの思いや考えなどを共有することで、やがて共通の目的をもつようになり、協同性へとつながっていくと考える。

## 思考力の芽生え・言葉による伝え合い
## 保育者の援助・環境構成のポイント

- 自分たちで選んで使ったり、試したり工夫したりできるような環境の構成（長さ・素材・形状が違う樋、台にするコンテナ、いつでも汲めるように水を溜めたたらいなどの準備）
- 一緒に必要なものを考えたり探したりする、遊ぶなどして、寄り添う保育者の存在
- 工夫したところを認める保育者の言葉かけ
- 心通わせ、気軽に言葉を交わすことのできる友達の存在
- 困りを共有し、友達と考えを出し合えるような場の設定

## 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「10の姿」

協同性　自然とのかかわり・生命尊重

**思考力の芽生え**　**言葉による伝え合い**

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

＊本シートは、玖珠町立森幼稚園（市町村幼児教育アドバイザー在籍）が記録したエピソードをもとに、県幼児教育スーパーバイザーが、園内研修で助言を行い、共同で作成したものです。